



聖ウルスラ学院 英智報

ウルスラ 英智

vol.40 2019. 10

特集

第15回 英智公開研究会開催記念

【特別座談会】

英智15年の歩みと「志」教育



ウルスラ英智ファミリー
(一本杉キャンパス聖堂にて)

聖ウルスラ学院英智の推進する人間教育の取り組みについて、日頃より温かいご理解とご支援をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

本学院の基本的な願いは、一人ひとりの子どもが豊かな個性を持つ、しっかりした人間として成長し、社会の一員として有意義な働きができるようになると同時に、自分自身に与えられた生命に感謝し、自らの人生を満足できるものにしていく力をつけることにあります。この目標に向け、必要な学力を着実に身につけると同時に、自分自身の内面世界を充実したものにしていこうと目指し、教職員一丸となって日々努力しています。

本学院の教育のあり方について、改めて深いご理解をいただき、倍回の温かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。



新校舎建築

中学・高校の
男女共学化

特集

特別座談会

チームウルスラとして全校一丸になり、
これまでも、そして明日へ、未来へと

英智15年の歩みと「志」教育

カトリック教育学校としておよそ80年を歩んできた本学院は

2002年、新たに迎えた梶田理事長の下、学校改革という大英断を下しました。

校名変更、男女共学化、制服改革、小中高一貫教育、高校コース制導入、言語技術教育…、
学校全体がチームウルスラとして団結し、取り組んだ結果が今日の学院の姿です。

今回は、その15年の歩みを振り返り、座談会形式で語り合いました。

独自のカリキュラム

小・中学校
4・3・2制導入

制服改革

高校コース制
導入

校名変更
新校歌作成



■3つの方針を打ち出し、教育改革スタート



曾和 まず2002年に理事長職に就き、改革を指揮された梶田先生にお話を伺いたいと思います。

梶田 改革に至る大枠からお話しましょう。私は1998年、経営危機にあった京都ノートルダム女子大に呼ばれ、2～3年で蘇らせることができました。これが一部で話題になり、その頃、生徒数が激減していた本校の辰巳邦子理事長から相談を受けたのが始まりです。

私は2000年から教育改革国民会議のまとめ役も兼務し、日本の教育の見直しもしていました。私自身は反対だった「ゆとり教育」が、やはり失敗したのです。会議では国際水準の教育を再建しようと議論を進め、大きな改革の方向づけができました。

私は関西と東京を往復する合間に仙台にも来て、教頭だった伊藤先生、杉山先生も交えて話し合ったのです。その際決めた3つの方針の1つが中学・高校の男女共学化ですが、同窓会の反対に遭い、何度も説明しながら慎重に進めました。2つめの制服変更は伊藤先生を中心に進め、デザイン案を提示して生徒から投票してもらいました。3つめ、校名に「英智」を加えることも反対はありましたが、改革には多少の無理も必要です。さらに難関大学を目指すコースを新設し、鎌田先生をはじめ何人かの先生を招聘しました。

コース新設以降、続々と東北大学合格者が出た際には大いに祝福されました。その時、頭脳の良し悪しは生まれつきではなく、基本的に教師の指導によることが実証できたのです。

今でこそ他にも見られる小中高一貫体制も、2004年に当校がいち早く始めました。ただ近年は、子どもたちの成長が心身とも早まっています。思春期発達は思考も変わってくるため、6歳児就学はもとより、年代ごとの指導法を見直すことも必要となるでしょう。

改革では、並行して言語教育導入、校舎建築なども進めました。伊藤先生は2004年に中・高の校長に就き、その後は私が5つの大学長も兼務したため、理事長職務代理ともなって名実ともに陣頭指揮を執っていたと、現在に至っています。

■危機を乗り越えた、チーム英智の底力



曾和 改革以前からのお話を熱く語っていただきました。では先頭に立ってきた伊藤校長先生、お話をお願いします。

伊藤 人は人との出会いの中で成長するものです。初代のスザンヌ・マルテン校長のもとでは、聖ウルスラ学院の創立の歴史を深く学ぶことができました。

また梶田先生が初めて来校された日、まず講演会場を見たいとのことで、私のご案内しました。その時の先生の言動に「これこそが

本物の教育」と、私はいい意味でショックを受けました。どんな会場で誰に何を話すか…。受講者と気持ちを通じ合わせるための準備なのです。その後の講義でも、真の教育者の言葉に心が揺さぶられました。本校の危機的状況で理事を引き受けていただき、とても安堵したことを思い出します。

当時の宮城県は私立校同士の競争が激しく、校長会も旧態依然とした考え方だった中、日本と世界の教育を見据えた梶田先生のお話は、ことさら感銘を受けました。小泉内閣による構造改革が叫ばれた時期でもあり、ウルスラの改革も今ならできると確信できました。我が校は生徒数減少に加え、不登校の子も始始めていました。梶田先生は、どん底にいるなら青天井に向かうだけと言ってくださいました。我々はどん底を見たお陰で這い上がれ、同時に安泰でも常に先を見なければ危険だと思い知らされたのです。

改めて整理すると、ウルスラは宗教法人から学校法人に変わっても意識が低く、我々は法人の構成メンバーであり、財務を動かすとの意識が足りませんでした。これを教えてくださったのが梶田先生で、全職員がチームとして力を出せば、子どもたちは幸せに育成されるとおっしゃいました。

ウルスラの校名に「英智」を加え、ホップ・ステップ・ジャンプを意味する羽根マークを作ったのも梶田先生です。改革メンバーの準備、小中一貫特区の申請などもすべて理事長の采配によるものでした。私は当時、高校が理想の形に確立しなければ、小中一貫教育も成り立たないと考えていました。高校男女共学化への不安も大きく、とにかく特別志学コースを立ち上げて必死に取り組んだ結果、着実に成果を上げ、このことを軸に募集活動に成功したのです。

小中一貫制についても教職員が一致団結し、時には書類と格闘しながら、どうにかスタートできました。やはり神様は乗り越えられる者にしか試練を与えません。神様は乗り越える力も与えてくれるのです。先生方には、こうした困難を乗り越える姿をぜひ子どもたちに示してほしいと思います。新しい挑戦には不安もつきものですが、先導者に信念があれば叶います。こうして、チーム英智がより強固なものになっていきました。

梶田先生はその頃、テレビの討論番組でも堂々と教育を語っておられ、さすがが我が校が理事長と誇らしく思えたものでした。また先生が各地でウルスラの教育改革を語ってくださるお陰で、本校の認知度が上がり、さらに教育も引き上げられていくのです。

長くなりましたが、こういう流れでここに至っています。

■伝統校の土台を支える幼稚園として



曾和 話題は幼稚園に変わりまして、佐取先生にお伺いしたいと思います。

佐取 幼稚園は園児数が安定しており、改革時も危機感はあまり感じませんでした。また本園の教職員は、ほとんどがウルスラの卒業生だったこともあり、当初は校名や制服変更について、なぜ？どうして？・・・と疑問に

思うことばかりでした。先生方には、同じ学校法人の一部門であることを踏まえ、経営状態や小・中・高校の状況を理解してもらうことで合意が取れました。以降は一貫教育の中で、子どもたちの成長の基礎となる部分をしっかりと固めて行きましょと、共に歩んでいるところです。

また今後少子化が進めば、園もいつどうなるかわかりません。そのためにもカトリック幼稚園として続けてきた心の教育を重んじ、伝統を忘れずにいかなければならないと思います。この10月からは保育料の全面無償化が始まり、幼稚園としての質が一層問われることになります。理事長先生がよくおっしゃる「選ばれる幼稚園」になれるよう、一同心を引き締めていこうと思っています。

園では2年前から幼・小接続の一つとして言語技術教育に繋がる言葉の教育を採用しました。小学校の先生方が園まで来て絵本の読み聞かせをしてくださいます。こうした大きな力添えをいただきながら、幼稚園の私たちも研修と実践を重ねているところです。言語技術教育はことばの力を育み、コミュニケーション能力、そして豊かな人間性を育みます。本園の特色教育である宗教・英語・リトミック、そして言語技術をはじめ色々な遊びを通し、子どもたちが社会の中で豊かに生きてく力を培いたいと思っています。一本杉と園舎が離れているため、意思疎通がダイレクトに行われない場合もありますが、伝統校の土台としてしっかりと務めてまいります。

■改革以前、以降とも現場教員は常に全力



曾和 幼稚園は子どもにとって初めての社会なので、今のような方針は親として安心です。さて、激動期を一から体感し乗り越えてきた杉山教頭先生はいかがでしょう？

杉山 私は昭和62年から勤務しており、この約30年間で感じたことは沢山あります。特に申し上げておきたいのは、現場の先生



[出席者]

司 会／聖ウルスラ学院 評議員 曾和 弥生
出席者／聖ウルスラ学院 理事長 梶田 叡一
教育顧問 鈴鴨 清美
法人事務局長 高橋 直見
英智幼稚園 園長 佐取美智子
英智小・中学校/高等学校 校長 伊藤 宣子
英智高等学校 教頭 杉山 禎彦
英智小・中学校 教頭 鹿野 紀幸
英智高等学校 コース教育主幹教諭 鎌田 聡
英智高等学校 グローバル教育主幹教諭 後藤 健一
英智小・中学校 教諭 熱海龍太郎
小・中学校/高等学校 父母教師会 会長 赤間 英文

(敬称略)

方の力は改革前からあったということです。私はいい教育をしていると感じていましたが、しかし、それが外部には思うように伝わらず、明確な結果にも現れなかったのです。

学校改革の大きな柱となった男女共学化は、かなり以前の理事会でも議題として検討されたそうですが、その時は中高一貫教育の強化が優先され実現しませんでした。やはり女子校から男女共学にすることには大きな壁があり、その決断には大きな勇気が必要でした。今は軌道に乗ったウルスラ流の共学化のプロセスは一部の他校の参考にもなったようです。

また、最近もある先生が「自分は、生徒が減少して定員を割り込んでいた時期を知っている。今は復活し安定しているが、気を緩めればすぐに落ちるとわかるので、自分はいつも全力を尽くしている。」と語っていました。一人ひとりの先生方は今も緊張感をもって何事にも懸命に取り組み、子どもたちと誠実に向き合っています。そうした現場の力が、日々の学びやその成果である進路、部活動などにおいて発揮され成果をあげ続けているのだと思います。

■自らが「夢」を「志」に引き上げた子どもたち



曾和 本当に様々な思いがあって、今のウルスラがあると感じさせられます。続いて、授業などで直接指導される先生方、まずコース教育主幹の鎌田先生にお話をいただきます。

鎌田 本校では高校の子どもたちに対し、どういう環境でどう頑張るかを非常に大事に考え、そのためのコース別であると理解し

ています。頑張れる環境で、頑張ることで見えてくる自分がある。その自分が見えてきてこそ「志」を立てられます。

私がこの学校に来た当初は、「志」では目標が高過ぎるように思ったので「夢」と言っていました(笑)。でも、そこから着実に歩みを進め、今は子どもたち自らが「夢」を「志」に引き上げ、大学に行って活躍してくれるようになりました。

私はウルスラで指導して15年目ですが、初めて訪れたのはその2年前です。梶田先生、伊藤先生、杉山先生と面談し、最初は本当に進学校に変わることができるのか不安でした。それでもお話を伺ううち、確固とした先生方の覚悟が伝わってきたのです。

その後実際に着任し、高3になっていた1期生に接した時、私は「この子どもたちには力がある」と感じました。「磨けば伸びる素養のある子どもたちだから、私も一緒に走りながら志を形にしよう」と意思を固めました。そういう状況で、私も初めてのコースを走ってきたため、力のある子どもたちでも、十分に伸ばすことができずに送り出した時期もありました。

昨今はそれも一段落し、コースでは生徒たちの進学の志に向け、しっかりとサポートできる体制ができています。子どもたちには恵まれた環境の中、自分で学び取るという強い姿勢を持って向かって行ってほしい。贅沢な目標かもしれませんが、コース教育主幹としては、さらに多くの活動を通して個々の力、潜在的な力を引き出し、磨いて行ける学校でありたいと思います。私はそういう子どもたちのために、厳しいと言われつつ、日々接しています。

梶田 鎌田先生の厳しさは、一人ひとりの力を引き出す厳しさです。だから指導する生徒は活性化し、伸びるのです。サンデー毎日が、ウルスラは東日本で一番元気の良い学校の一つだと記事にしましたが、鎌田先生が先頭に立ったことで実現できたと思います。



■一貫教育の成果を膨らませる鋭意努力を



曾和 さて小学校で指揮を執る鹿野先生。以前は中・高のそして高校の広報部長をされていましたが、お話をお願いします。

鹿野 学校の危機といわれた当初、私も含め教職員たちは実感がありませんでした。後で知ることにはなるのですが…。そういう時期に広報部長に就き、様々な改革を目の当

たりにさせてもらいました。男女共学、校舎建築、一貫教育など、私も積極的に関わってきたつもりです。

高校改革では初代コース長の汐海治美前副校長が、特別志学コースの立ち上げから尽力されていたことを思い出します。共学化の男子生徒募集は慎重に進め、1年目は男子5人でスタートしました。生徒募集では、来年度から尚志コースも男子一般入試に加わるということで、大きな分岐点になるかと思います。

小中一貫化は、当初の校舎が木ノ下と一本杉に分かれていたことから、4・3・2制の3の部分のつながりが難しかったように思います。それが8年前に新校舎が建ち、小・中一本化になるタイミングで、新規ポストの小・中担当に手を挙げました。現在、小・中のまとめ役としては、初期に金澤孝夫先生が作った土台を崩さず、4・3・2制の成果をいかに膨らませていこうかと、渡部久美子教務部長や各ステージ長、教員たちと鋭意努力しています。

教育分野での研究は、企業の研究専門チームとは違い、教育現場の仕事と並行して進めなければなりません。ウルスラの教員は本当に頑張っています。頑張れる職場であることが、子どもたちの教育にも反映すると信じ、今後も歩んでいくつもりです。

■全力で挑戦し、自らスキルアップできる人に



曾和 では、後藤先生にお話を伺います。高校生自身の意識が変わりつつあるということですが、国際交流や海外研修の成果や今後の課題はいかがでしょう。

後藤 2014年に国がSGH(スーパーグローバルハイスクール)構想を立ち上げた際に、ちょうど私がこの役職に就きました。そこ

で、本校でもその趣旨をくみ取りつつも独自の流れを作り上げるべく留学プログラム全体を含む大枠の改革に着手しました。それ以前はカナダの姉妹校への短期留学(3週間:俗によくある「語学留学+ホームステイ」タイプ)とコリブリ・ネットワークを使ったフランス語圏短期留学、長期は先にお話したカナダの姉妹校へのものと外部機関(主にロータリー・AFS)といったプログラムだけで、カリキュラムとの連動や事前・事後学習といった部分はあまり重要視されていない状況であったことは否めません。

この状況を打破するために4つの施策を考え、まずは目的・レベル・方向性の差異を付けた複数プログラム、すなわちU-GAP(URSULA GLOBAL ACTION PROGRAM)の構築に着手しました。現在では巷で話題の総合科目「探究」につながる課題解決型実践プロジェクトU-MoG(URSULA Mission on the Ground)を始めとする合計31種類のプログラムを使用できるようになりました。

今後の課題としては、海外進学者がType2を中心に年々増加傾向にあるので、そのような海外進学者へ向けた情報提供の方法の多様化を模索し、実行に移していくことや、常に5年後・10年後を見据えた形での学院内でのグローバル教育へ取り組みを強化していくことなど、常に「先を読む力」を教員自身も磨き続ける必要があると考えております。

■今の指導に生きる、濃密だった在学生活



曾和 それでは鎌田先生の教え子でもある熱海先生。在学中の経験や、教師になってからの思いなどを伺います。

熱海 私は地元の中学で近くに住んでおり、ウルスラの校舎を見て育ちました。受験で初めて校内に入り、面接で「男子が少ないが、しっかり歩んでいけるか」と質問されました。

私は「ウルスラの男子生徒の歴史を作っていきます」と答えたのを覚えています。これが高校生活の指針にもなりました。Type1に入ってから、他の生徒の模範になるよう指導されました。遅い時間まで授業があり、沢山教わることに感謝しながら頑張りました。

在学中の経験が、今の生徒たちへの指導にも役立っています。また鎌田先生は「結果が出るには、それなりの理由がある」が口癖で、生徒全員へ、成績の良し悪しに関わらず言い続けていました。私としては「現状に満足すると油断し、そこで止まってしまう」と解釈し、自分を律しました。先生の厳しさには愛があり、私も何度も愛をいただきました(笑)。私はウルスラでの濃密な3年間で生まれ変わったような気がします。現在の8・9年生のType1の生徒に対しても、「自分を必ず伸ばすことができると、自信を持ちなさい」と指導しています。

■意欲的・協働的に授業に臨める希少な学校



曾和 共学創生期の体験を指導に活かされていますね。それでは鈴鴨先生、お願いします。

鈴鴨 私が県の教育長時代、議会で「宮城県県の教育レベルはなぜ低いのか」という、答えに窮する質問がありました。確かに学力テストの成績は低く、大学進学率が47都道府

県で下から2〜3番目のことがあったのです。私は視点を変えて答弁し、子どもが学ぶ力をつけるために必要な3点を話しました。まず、人間は生涯学び続けなければならず、幼稚園から大学までは学びの道程にいる。学校で課題を持って持続可能な学習力を身に付けることが、学力向上に繋がるはずと。2つめは自ら学びたいという意志を持ち、「自己教育力」を身につけること。そして3つめこそ、学校全体が教育への思いを成熟させ一枚板になることだと話しました。

私は平成19年に本校に来て、生徒の学力は高い数値を獲得できると感じました。教師集団の意識の高さをみても、県内私学で十分にトップにいます。小学校の授業を時々拝見すると、先生が子どもたちと同じ位置に立ち、一体となった授業が展開されています。先生は授業に取り残される子どもがいないよう、常に目を配っています。ウルスラのレベルが高いのは、この積み重ねにあるのです。教員と子どもたちが、意欲的に協働的に授業に臨める学校はそうありません。本校の本領はこれからさらに評価されることでしょう。この体制下、今後も子どもたちが学ぶしあわせを感じられる学校になっていければと思っています。

■他に誇るべき公開研究会。財務もチーム力で



曾和 学校で学ぶ喜びを知ると、その後の人生はより豊かになることでしょう。さて法人事務局の高橋局長にも、学校経営のことなどお話を聞きたいと思っています。

高橋 私は平成20年、生徒数が回復し始めた頃に来ました。当初はまだ財務状況が厳しく、新年度を迎えて5月になると、銀行に

走って支店長に頭を下げたものです(笑)。2〜3年ほど続きました。

私は直接、改革には携っていませんが、今年15回目となる公開研究会は、他に誇るべき取り組みです。一般の公立校では、研究指定を受けた学校が2〜3年をかけて準備し、発表後は何年も休むのが通例です。これを毎年開催している本校のパワーには大変驚かされました。私学は、何もしないと滅亡する野生動物にも似ているかもしれません。危機から自力で立ち上がる、強さやたくましさを実感しました。

事務局担当としては、3号館建築や南小泉総合グラウンド整備は大きな事業でした。今野正則次長らと一緒に取り組みましたが、かなりエネルギーを注いだと思います。今後は施設・設備・環境でICT教育関連が優先課題です。これもチーム力でいい方向に進めていければと思っています。

■チームの一員として、さらに盛況なウルスラへ



曾和 法人としての支えを有難うございます。最後にPTA会長の赤間さんにお話をお願いします。

赤間 皆さんのお話を伺い、聖ウルスラ学院の歴史や改革の歩みがよく分かりました。印象的なのは、伊藤校長先生の「どん底を見たから今がある」との言葉です。どん底まで

行ったからこそ、学校全体一つになって力を合わせ、V字回復という結果につながりました。「試練は乗り越えられる者にしか与えられない」という言葉もまた、心からうなずくことができました。

私は父母教師会会長になって3年目です。会の運営でも課題は多々ありますが、これを前向きにとらえて勉強を重ねています。私個人も、会そのものも成長するために通る道と考え、日々頑張っているところです。今後も学校をさらに盛り上げるため、しっかりサポートしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

■本校卒業生の社会貢献に、さらなる期待を



曾和 今日は、選ばれる私学に生まれ変わったウルスラの教育改革が、分かりやすく語られた座談会でした。校長先生は度々「学校は勉強して賢くなるところ」と話されますが、ご本人がそれを体現していることも再認識しました。私自身もPTA顧問、評議員として何ができるかを常に考え、勉強し、チーム

ウルスラの一員としてもしっかり取り組んでいきたいと思っています。

締めくくりには梶田理事長、伊藤校長、ひと言ずつお願いします。

梶田 チームウルスラは皆さんがそれぞれの立場で気持ちを通わせ、お互いの支え合いができています。また教職員や保護者におごり・高ぶりがなく、一丸となっていることも良いと思います。

昨今は卒業生が難関大学にも多く合格するようになりました。大学側からすると、入学してくる高校生の質も気になるものです。いかに名門高校出身でも、人間性に歪みがあってははいけません。チームウルスラは、それぞれの個性の違いを理解し、それぞれの持ち場で頑張っています。ここを土台に、子ども一人ひとりが力をつけ、世の中でまた伸びていくような力を見せていきたいと思っています。

伊藤 今後は本校卒業生の社会参加・社会貢献の様子などを、ぜひ追跡して調査したいものです。私たちの学校教育をより堅牢なものにしていく資料にもなります。私は毎年の教育方針に「志とは力なり」と掲げており、子どもたちに願うことは、社会や人への良き貢献と良きことの実践です。卒業生のそうした資料があれば、後輩の励みにもなることでしょう。

曾和 本日は大変有意義な座談会を有難うございました。

一緒に遊ぶのって たのしいね!!

～日常の関わりのなかで～

『なかよし、げんき、みんなの輪』

日々の生活の中で好きな遊びに没頭し、仲間と関わり合いながら楽しく遊ぶ子どもたちには年齢によって様々な育ちがあります。

3歳児・・・初めての園生活。安心して遊べる場所を見つけて自分の思いを出し始めます。

4歳児・・・たくさんの事に興味を示し、活動範囲が広がります。自分以外の他者を意識し始めます。

5歳児・・・お互いに思いを出し合い、協力する楽しさを味わいながら自分の気持ちを言葉にして表現できるようになります。

一緒に喜んだり、笑ったり、怒ったり、泣いたり、時には喧嘩をして、仲直り・・・そんなたくさんの出来事の中でいろいろなことを学んでいきます。

どの経験もこどもたちにとっては大切なことなのです。



フィンガーペインティング



元気いっぱい外あそび



先生、読んで!!



大型つみきあそび



先生、あのね...



お弁当、おいしいね!



七夕つくったよ



みんなで ごあいさつ

つぼみ組 4歳児

やってみたいな！ 元気いっぱい好奇心いっぱい

きらきらした小さな瞳を輝かせ、
はじめてのことやちょっと難しいことにも
『やってみたい!』と興味津々な4歳児。
友だちとの関わり、物との関わり、
たくさんの関わりの中で
心も身体も大きくなっていきます



砂あそびもブランコも
みんな大好き!



いっしょにやいませ〜



笑顔がいっぱい!



チューリップさん
大きくなあれ!



静かに祈り…



夏まつり、
みんなで声を合わせてうたったよ!



ともだちの発表を聞きます!!

はな組 5歳児

ぼくたち、わたしたちに まかせてね!

幼稚園の中で一番大きいお兄さん、お姉さんとして
自覚と責任をもち、当番活動をしたり、
小さなクラスのお世話もがんばっています。
また、友だちと考えを出し合いながら、
みんなでひとつの事に向かって力を合わせたり
心を合わせたりする楽しさを味わえるように
なっていきます。



おいしいカレー
つくるからね!



屋上のプールそうじ



なが〜いぺびつくったよ!



大きなひまわりができたよ!



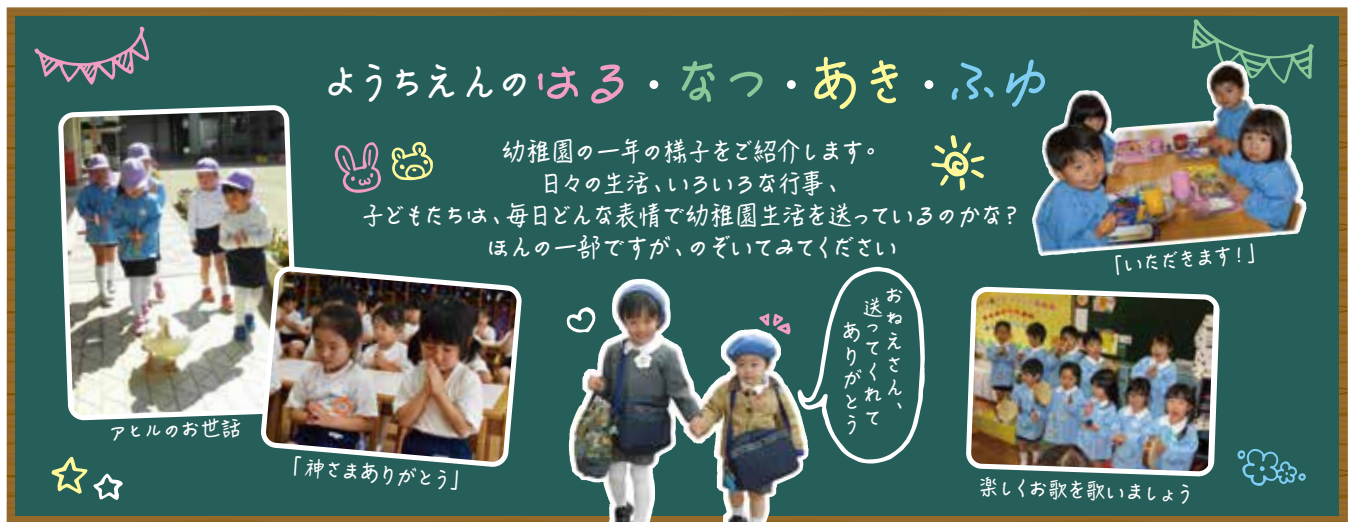
ふたばさん、いっしょに
お散歩いこうね!



手形のうろこ
ぺったん!!



手づくり こいのぼりの完成!



お手伝いがなくても
自分できるよ！



初めての集団生活。上手にお話聞けるかな？

年少児にとっては不安もいっぱい。
初めての経験もたくさんあります。
進級した年中児・年長児は、
笑顔で張り切っています！



進級を前に期待で胸いっぱいの子どもたち

えほん読んで
あげるね！



きれいなお花が
たくさん咲いたね！



たけのことせいくらべ

暑さに負けず、
元気いっぱいの子どもたち。
水遊びや泥んこ遊びも
思いっきり楽しめます！



一つ学年が上がることに
期待もやる気もいっぱいの子どもたち。
そして年長児は
これまでの経験を自信に変えて、
小学校へと進んでいきます。



雪のおふとん、気持ちいいな！



「女の子も
消防士さんに
なれますか？」



地震？！
ダンゴムシのポーズで命を守る練習！



修道院で
神さまのお話を聞きます



秋空のもと元気いっぱい駆け回る子どもたち

運動会やようちえんまつり、
いもほりや遠足などいろいろな行事が楽しみ！
気持ちの良い季節は伸び伸びと体を動かして過ごします。



絵画作品受賞おめでとう



第78回 全国教育美術展

平成
30年度

教育委員会賞(地区学校賞) 受賞
聖ウルスラ学院英智幼稚園



【特選】「あひる」
豊田 紗帆 とよた さほ
(年中・4歳児)



【入選】「つなひき」
及川 惺嗣 おいかわ ざとし
(年長・5才児)

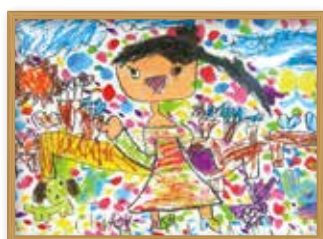


【入選】「レッサーパンダ」
遠藤 希咲 えんどう きさき
(年長・5才児)



【入選】「ゆうやけとんぼ」
小林 望月 こばやし みつき
(年長・5才児)

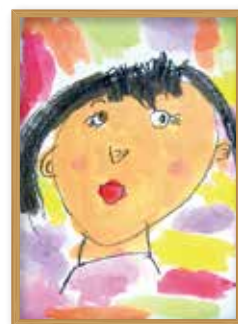
第37回 みやぎ児童画展 — 第49回 世界児童画展 同時出展



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【特選】
「水やりしているおかあさん」
西村 愛来 にしむら あいら(年長・5才児)



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【入選】
「買い物に行くおかあさん」
松井 未来希 まつい みらの
(年長・5才児)



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【入選】
「おかあさん」
佐藤 愛花 さとう まなか
(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【入選】
「おかあさん」
福井 駿介 ふくい しゅんすけ
(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【入選】
「おかあさん」
穴倉 颯夏 しくら そよか
(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】
世界児童画展【入選】
「おとうさん」
松浦 光志 まつうら みつき
(年中・4才児)



聖ウルスラ学院英智の教育に寄せて

先日、幼稚園の廊下ですれ違った園児たちが「こんにちは」と、元気に大きな声で挨拶してくれました。日頃から先生方がご指導してくださっていることを実感しました。

娘は年長になってからとても成長したように思います。年少・年中組のときにお世話をしてもらったり遊んでもらったオープンランド(縦割り保育)などの経験から、他者を大切にするという心が育ってきているのかもしれない。

情操や道徳心を育む極めて大切な時期と言われるこの幼児期に、人を思いやり助け合うことの大切さ、そして感謝の気持ちを忘れないという教育を受けることはこれからの成長過程においてとても大切なことなのではないかと感じています。

園児と保護者に寄り添い、温かくサポートして下さる先生方のおかげで、親子共々充実した幼稚園生活を送ることができています。保護者の皆様と協力して、本年度の母の会も子どもたちの楽しい毎日のために活動していきたいと思ひます。



母の会 会長
木村 有紀

小・中学校の一日

今年度より全ステージ45分授業になりました。新しい小・中学校の1日をご覧ください!

First stage

ファーストステージの1日



Point 1

【始業時刻が
8:50になりました!】
余裕をもって、
1時間目の準備ができます。



【縦割り掃除】

Fステージ丸となって
頑張ります!



朝読書

8:20~

朝の祈り・朝の会

8:30~

1校時

8:50~9:35

10分休憩

2校時

9:45~10:30

なかよしタイム [20分]

10:30~10:50

3校時

10:50~11:35

10分休憩

4校時

11:45~12:30

給食・昼休憩

12:30~13:20

掃除

13:20~

5校時

13:45~14:30

10分休憩

6校時

14:40~15:25

帰りの会

15:25~

にこにこ学習

~16:00

放課後活動

(学童保育は~18:30)



【朝読書】

静かな雰囲気
の朝読書から
1日が始まります。



【なかよしタイム】

メディアセンターで本を読んだり、
グリーン広場で体を動かしたり、
思い思いの楽しい時間を過ごします。



【充実の放課後活動】

パソコン英語、英語コミュニケーション、
そろばん、図工、音楽、学童保育と
放課後も充実しています。



パソコン英語



学童保育は~18:30

年間を通して
ステージ行事、学校行事など
さまざまな活動に
取り組んでいます!



入学・入校式



マリア祭



Fステージ運動会

聖ウルスラ学院英智小・中学校教育研究開発学校
(教育課程特例校)

第15回
記念大会

英智公開研究会

【開催要項】

9月1日現在

【研究主題】

「論理的思考に基づくクリティカルな
ものの見方・考え方を鍛える教育実践」

ー対話による深い学び合いを通してー

◎日 時:令和元年11月22日(金) 9:00~16:30(受付 8:00~)

◎会 場:聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館

◎主 催:聖ウルスラ学院英智小・中学校

◎後 援:宮城県・宮城県教育委員会仙台市教育委員会

◎参加費:一般/2,000円(資料代を含む) 学生/無料

〈別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます〉



Second stage Third stage セカンドステージ サードステージ の1日

Point 3 **【昼休みが10分長くなりました!】**
講堂で体を動かしたり、長い休み時間を利用して勉強を進めたり...



【放課後活動】
AS活動(補習授業)等それぞれの活動に励みます。



朝読書
8:20~

朝の祈り・SHR
8:30~

1校時
8:50~9:35
10分休憩

2校時
9:45~10:30

モジュールタイム [20分]
10:30~10:50

3校時
10:50~11:35
10分休憩

4校時
11:45~12:30

給食・昼休憩
12:30~13:25

5校時
13:25~14:10
10分休憩

6校時
14:20~15:05
10分休憩

Sステージ 5・6年生

掃除
15:10~15:25

SHR
15:30~

放課後活動/AS学習
15:50~

Sステージ 7年生
Tステージ 8・9年生

7校時
15:15~16:00

SHR・掃除
16:00~

放課後活動
16:40~



【朝読書】
静かな雰囲気
の朝読書から
1日が始まります。



Point 1 **【始業時刻が8:50になりました!】**
余裕をもって、1時間目の準備ができます。

Point 2

【新登場! モジュールタイムの活用】
今年度より取り入れられたモジュールタイム。10分休憩を含むこの時間帯に、S・Tステージ生は様々な活動を行うことができます。7月には、モジュールタイムを活用して、夏休み前の委員会活動を振り返りました。



【充実の放課後活動】
16:40以降、S7年生は課外学習、Type2生は部活動、Type1は8・9校時とそれぞれの活動に励みます。



中総体



Sステージ合唱コンクール



Tステージ合唱コンクール



校外学習

他にもたくさんの行事やイベントがあります!

プログラム

【受付】 時間/8:00~ 会場/講堂前フロア
【開会】 時間/9:00~9:10 会場/3号館講堂
◎挨拶 校長 伊藤 宣子
【全体会】 時間/9:10~9:30 会場/3号館講堂
◎研究主任 渡部久美子
【公開授業1】 時間/9:45~10:30 会場/各教室
◎国語・言語技術(S5)、算数・数学科(F2)、英語(F1)、理科(S6)
【公開授業2】 時間/10:45~11:30 会場/各教室
◎国語・言語技術(T9)、算数・数学科(S7)、英語(T8)
【昼食】 時間/11:30~12:50 会場/各教室
(お弁当引き替えは3階講堂前フロアです)

【分科会】 時間/12:50~14:30 会場/各教室
◎教科分科会
【実践報告】 時間/14:50~15:10 会場/3号館講堂
【講演会】 時間/15:10~16:10 会場/3号館講堂
演題/「カリキュラム・マネジメントについて考える」
講師/元国立教育政策研究所 所長 常盤 豊 氏
【閉会・まとめ】 時間/16:10~16:30 会場/3号館講堂
◎理事長 梶田 徹一

◆お問合せ/研究会事務局 TEL.022-286-6461 教頭 鹿野 紀幸

小・中学校の活動報告



ESDの取り組み

Education for Sustainable Development

本校は2012年にユネスコスクールに加盟しました。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校のことです。日本国内の加盟校は1,000校を超えており、世界182か国の国と地域では10,000校以上のユネスコスクールがあります。

日本のユネスコスクールの活動として、ESDを推進することが求められています。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの頭文字で、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」のことです。これは環境、貧困などの現代社会の課題を意識しながら行動し、持続可能な社会を創造できる人を育む教育のことです。

本校では2018年度より、全学年で「人権」をテーマにESDに取り組んでいます。本校の教育目的である「キリスト教的人間観に基づく人格の形成」に基づき、自己や他者の価値を認め、尊重し合うことで持続的な社会を形成できる子どもたちを育てられるよう、学年に応じて様々な活動を展開しています。

また、ESDを実践していくうえで欠かせないのがSDGs(エスディーゼーズ)です。これはSustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」と訳されます。SDGsは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの、全世界で達成を目指す目標です。例えば「貧困をなくそう」や「人や国の不平等をなくそう」といった全部で17の目標が設定されています。日本国内でも多くの企業・団体がSDGsに取り組んでいます。

ユネスコスクールは、ESDの活動拠点です。ユネスコスクールでESDを実践することが、国際目標であるSDGsの達成につながるようになります。本校ならではの実践を積み重ね、本校で学んだ児童・生徒が世の中をよくしていけるよう、教職員一同、研究と修養を重ね、実践してまいります。

●各学年のESD活動のテーマと取り組みは13ページをご覧ください



(英智公開研究会)



新聞を活用した教育実践NIE

Newspaper in Education

昨年に引き続きNIE活動は、ESDの年間活動計画の中の一つの活動として位置づけられています。年度当初に、どの活動にどのように新聞を使うことができそうか、どのように活用できそうかを各学年で考え、ESDとの効果的な結びつきを図っていけるようにしています。

学年のESDテーマに関する新聞記事を探して正確に読み取り、自分の考えを明らかにする活動を行います。例年は、読むだけでなく、新聞を作成し、年度末に発信する機会をつくる学年もあるなど、さまざまな活動を通して新聞をツールとした協働的な学びをし、他者とのかかわりを大切にする機会にしています。

NIEとは 「Newspaper in Education」の頭文字を取ったもので、新聞を教材化することにより、授業を活性化しようとする取り組みのことです。基礎的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度が養われることが期待できます。



各学年のESD活動のテーマと取り組み

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

Fステージ 1年



1年生の活動テーマは「**しあわせ〜キラリ輝く四つ葉のクローバー〜**」です。友達との関わり方について学び合う活動を通して、自分のよさに気づき、互いのよさを認め合い、クラスや学年の絆を深めていきます。子どもたちは「しあわせタイム」と呼んで、みんなが仲良くなる時間であることを意識しながら意欲的に活動しています。幸せを呼ぶ四つ葉のクローバーのように、キラリと光る個性を発揮できるような心のふれあいを目指していきます。

Fステージ 2年



2年生の活動テーマは「**まわりの人を笑顔にしよう**」です。友達や1年生、上級生、家族、先生など周囲の人に笑顔になってもらうために、自分達にできることは何かを考え、みんなで話し合い、実行します。人に喜んでもらうことが自分の喜びにつながるということを感じながら、笑顔いっぱいの学校になるような活動を行っていききたいと思います。

Fステージ 3年



3年生の活動テーマは「**守ろう!わたしたちの環境・命**」です。理科や社会などを中心としたさまざまな学習や体験活動を通して、地球環境に対する興味・関心を高めていきます。地球が今抱えている問題にはどんなものがあるかについて知り、なぜそのような問題が起きるか、解決するためには何が必要かを考えることで、自分たちにできることを探し、できることから実行していきます。

Fステージ 4年



4年生の活動テーマは「**ファーストステージリーダーとして〜愛と奉仕の心を育てる〜**」です。子どもたちは、行事の運営や児童会活動、縦割り掃除を通して、リーダーにはどんな力が必要か学んでいます。相手を思いやり、喜んで奉仕できるリーダーを目指します。

Sステージ 5年



5年生の活動テーマは「**心の視野を広げよう!〜相手と自分の幸せのために自ら行動できる人へ〜**」です。様々な立場の人々がいることに目を向け、すべての恵みに感謝し、謙虚な心で人と接して進んで奉仕できる児童を目指しています。これまで5年生は自分や身近な人に目を向けてきました。今後は、宿泊学習を通して農家の方々の思いや願いに触れたり、老人ホームでの慰問を通して高齢者の方との交流を深めたりして、児童の視野を広げていきます。

Sステージ 6年



6年生の活動テーマは「**ホスピタリティ〜隣人愛〜**」です。相手の立場や視点を踏まえ、相手のために喜んで行動することができる児童、また、他者からの愛に気づき、感謝の気持ちを持って応えることができる児童を目指しています。日々の学校生活や様々な学校行事を通して、児童一人ひとりのホスピタリティ精神を育てていきます。

Sステージ 7年



7年生の活動テーマは「**理想的なチームのつくり方**」です。7年生はセカンドステージのリーダーです。遠足や合唱コンクール、スポーツフェスティバルなどの行事で、5・6年生や同級生との交流を通して、お互いの良さや自分の特徴を少しずつ理解し、集団の中でどんな行動が必要なのかを考えて行動する力を育てていきます。

Tステージ 8年



8年生の活動テーマは「**自己を知る**」です。久慈宿泊学習での漁業、農業、林業、畜産体験、10月に行われる職場体験などの活動を通じて、様々な職業とそれに従事する方々を知り、将来の目標ややってみたい仕事について模索します。また、自分のよさや適性、与えられた使命を果たせる人間となれることを目指して様々な取り組みに挑戦しています。

Tステージ 9年



9年生の活動テーマは「**多様性を生きる**」です。自分とは異なる様々な立場にある他者の存在を知り、お互いが尊重しあえるような接し方、生き方について考えていきます。これまで、県立聴覚支援学校の生徒や台湾からの留学生など、言語やコミュニケーションの方法が違う人たちと、工夫しながら積極的に交流を深めることができました。今は主にケアンズ語学研修に向け、日本を紹介するポスターセッションの準備を進めています。

すすむ教育のICT化

ICT委員 高梨 遼太

聖ウルスラ学院英智高等学校の一本杉キャンパスにおける※ICT教育は、この数年で格段にレベルアップすることができました。これまでもPC教室・LL教室併せて約80台のノートパソコンはありましたが、今ではそれに加えて多くの設備を備えた学校へと変化しつつあります。そのいくつかをここでご紹介いたします。



2018→2019 高校のICT化の実績

1

全ての普通教室に 電子黒板・プロジェクターを設置

昨年(2018年)7月に、全ての普通教室にプロジェクター・スクリーンが配備されました。これにより、これまでは扱えなかった画像や動画も簡単に授業で取り上げられるようになりました。また、電子黒板の機能も兼ね備えており、より効率的な工夫した授業ができるようになっていきます。

教員と生徒の工夫次第で何でも実現できる、多くの可能性を感じさせる授業が期待されます。



2

教員一人につき 一台のノートパソコン配備の実現

教員はそれぞれ自分の手元のノートパソコンで業務や授業の準備を行っております。また、教室に持ち込み、プロジェクターと接続することで授業にもフル活用しています。学内の無線LANに接続することで、学院内のほぼどこからでもデータを取り出し、フットワーク軽く活用することができています。

また、面談にも活用でき、データの記録や進路指導の強力なアイテムでもあります。



3

生徒貸出用 ノートパソコンの利用の拡大

昨年度まで2台だった生徒貸出用ノートパソコンが、昨年度の卒業記念品として5台に増台されました。非常にありがたいことです。今までもPC教室・LL教室にもパソコンはありましたが、使う時間などに管理上の制約がありました。

新しい5台のパソコンは、生徒が自由に借りて使用することができるパソコンです。授業の課題や調べもの、部活動での利用のみならず、出願の手続きや入試に向けた課題の作成まで、毎日多くの生徒が利用しています。放課後の職員室前では、多くの生徒がノートパソコンを広げ集中している光景がお馴染みのものとなりました。



4

タブレット端末の配備

電子黒板に併せて、iPadが10台配備されました。主に授業において活用されています。タブレットを利用した効果的な授業を考えるのも教員としての腕の見せ所といえます。練り上げた授業、実験的な授業に楽しそうに参加している生徒の姿は、教師冥利に尽きましよう。



5

尚志コースにおける Chromebook(クロームブック)の利用

尚志コースの生徒が一人一台小型パソコンを持ち始めて2年目になります。よりよい学習活動へ役立てるため、教員・生徒ともに日々是勉強です。尚志コースの紹介のページ(P16)もご覧ください。

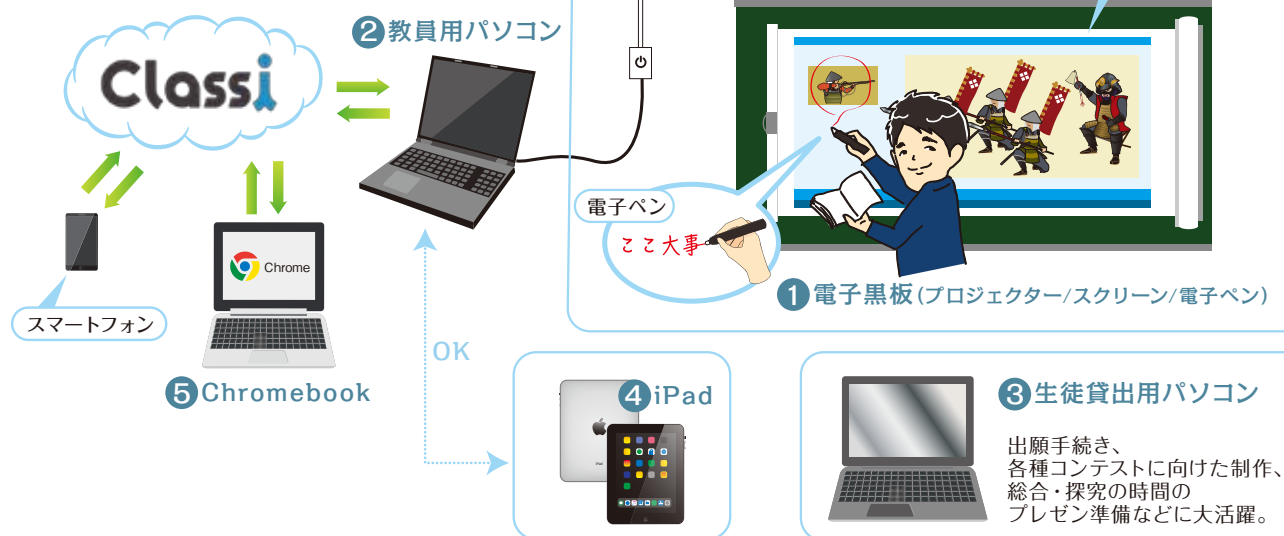


最後に、管理部門の話になりますが、成績管理ソフト「スコール」を使って、生徒の成績を1年生から3年生まで一元管理しています。

情報社会は避けて通ることはできません。そのような社会の中で、生徒ひとりひとりが主体的に活躍できる人になれるよう、ツールを使いこなしたその先を見据えて教育を続けてまいります。

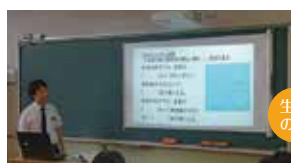
※ICT教育…パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法のこと。
Information and Communication Technologyの略。

《設備とシステム》



1 + 2 を使って

《こんな場面で利用しています》



プリントを投影して、スクリーンに書き込んだり、穴埋めをしたりする。

生徒の声 どのに何を書くのかわかりやすい。



教科書の本文や、問題の図も映せる。

生徒の声 グラフや図を問題の通り、実際に動かしてみることができる。

先生の声 それを活かして、自分の頭の中でも動かせるようになろう！

先生の声 本文や図を書く時間と手間を大幅に省略できた。



スライドを使って進める授業。

先生の声 授業の準備は大変だが、授業の進捗は速くなった。



動画や画像資料をスクリーンに表示。

生徒の声 細胞分裂や原形質流動をネットで見て、イメージが掴めた。印象に強く残っている。



生徒が制作したイラストやスライドをスクリーンに映して共有。

先生の声 反応が良くなった。「みんなに見られる」意識がやる気につながっているのだろう。

先生たちに
今後の展望を
聞いてみました

- Chromebookでのレポートを作成・提出の機会をもっと増やしたい。
- 生徒が電子黒板を使用しテスト解説をする中で素晴らしいものは板書を保存し、後輩に見せたい。
- 電子黒板のソフトは、現状ではかゆいところに手が届かない点があるので、今後の改善に期待したい。
- 半年間試行錯誤して使いこなせるようになったが、生徒の教科への苦手意識の解消には、授業者として一層の工夫が必要と感じる。

1 + 2 + 5 or 4 を使って

《こんな場面で利用しています》



Chromebookは、授業中の調べものやプレゼンでも使用。



Classi (※1) を通し、課題やお知らせを配信→提出。



生徒の声 分からないところは家で講義動画を見て復習し、解決できる。

生徒の声 時々宿題の存在を忘れてしまうが、家で勉強するようになった。

先生の声 提出状況や出来具合が一目でわかるので便利！

先生の声 例えば、「夏休みの思い出」についての英作文を提出させるなどした。



生徒の声 早く・ミスなくタイピングできるようになった。

生徒の声 パソコンに慣れるまで時間がかかる人もいる



単語学習や復習にゲームを取り入れている。(Type2は④を使用)

先生の声 教科の得意不得意に関わらず楽しそうに取り組むので、授業の導入や、授業中に気分転換させたいときに活躍している。

その他 Type1、Type2では、マナビジョン (※2) を利用し、模試の前後の目標設定・振り返りや、入試に向けてe-portfolio (イーポートフォリオ) の入力をしている。

Classi (クラッシー) (※1) …Classi株式会社が提供するwebサービス。尚志コース1・2年では、教員と生徒が一人一つアカウントを持ち利用中。
マナビジョン (※2) ……Benesseのwebサービス。Type1・Type2で、生徒が一人一つアカウントを持ち利用中。

コースだより

特別志学コース Type1

大学見学研修会を通して

Type1コース長 鎌田 聡

Type1恒例となった大学見学研修会。学びを深め、志の実現を可能にする大学を、数ある中から自分で選んでほしい、そのきっかけにという思いで始めた。今年の一年生は「自分ごととして」大学を見学する姿勢を作るために、「大学魅力度ランキングを作ろう!」というテーマのもと、自分たちが魅力と感じる部分について事前に意見交換をした。視点は様々だったが、生徒たちも「どうして大学へ行きたいのか」という核となる部分が徐々に見えてきたようであった。

ある程度の尺度を決めた上で各大学へ向かったところ、現地でもテーマをふまえ、熱を帯びた様子で質問する姿が見られた。事前に他者と協働し課題を明確化させ具体的な視点を持って研修会に臨んだことで有意義な会になったようである。今回の活動は、探究活動で必要となる「見方・考え方・取り組み方」を身に付ける狙いもあった。研修会を終えた今、大学で得た情報を分析し、ランキング尺度の練り直しや重みづけを再検討しているところだ。どのようにまとめ、大学をどのように捉えていくのか、そして生徒たちの大学選びにどのように影響していくのか。今後が楽しみである。



気付いたこと、重視したい点を書き出していく



活発な意見交換



考えをまとめレポート化

特別志学コース Type2

Type2で求めていること

Type2コース長 阿部 仁

これから求められる学力として、今までの知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力・協働力・問題解決能力等々がいわれています。今年度から、「総合的な学習の時間」が、「総合的な探究の時間」に代わり、新課程でも「探究」科目が増えています。

Type2コースでは、2016年度から「グローバル実践」を学校設定科目として取り入れ、先駆けて探究的な授業を行っています。ここで培った力を実践する環境として、アジアの国々が抱える課題に取り組む社会企業家の思いを受け共に解決に挑戦する「U-MoG」(Ursula-Mission on the Ground)というプログラムもあります。この「U-MoG」への参加希望者は、今年度20名を超えています。

Type2コースは、高校時代を無為に過ごすのではなく、力を注ぐものを見つけて挑戦する人をサポートするコースです。勉強・部活動・留学・対外的な活動など、精一杯挑戦することで、個人の成長、ひいては社会貢献できる自己が形成されると信じています。高校で自分を大きく成長させたいと望む人にぜひ入学してもらいたいと思います。



「グローバル実践」の研修授業



「U-MoG」参加者

尚志コース

尚志コースにおけるICT教育の取り組み

尚志コース長 喜古 康

昨年度より、尚志コースでは入学時から一人一台ノートパソコンを持たせています。Chromebookという、A4サイズの小型のパソコンで、画面を折り返すとタブレットとしても活用できる優れたものです。キーボードがあることで、スマートフォンの扱いのみではなく、文書作成や表計算、プレゼンテーション作成能力等、パソコンの活用能力の育成も念頭においています。

早朝に登校して、Chromebookを使って自習を進める姿や、昼休みや放課後に、廊下の勉強スペースで有意義に活用している姿を多く見かけます。今年はChromebookを持った学年が修学旅行に行くため、事前・事後レポートや自主研修の計画等におけるパソコンの活用が非常に期待されます。便利なツールとして、当たり前に使っている姿は素晴らしいことだと考えています。

また、学習や課外活動の記録を学習管理ソフトのClassiに蓄積することで、学習や体験から学んだことを振り返ることができます。今後、自分の記録の蓄積を通して、進路の選択や、次の探究的活動へと発展させていきたいと考えています。

情報社会におけるICT活用能力や情報モラルの知識の育成を含め、これからの社会で活躍できるスキルを持った人への成長を大いに期待しています。



修学旅行の事前調査にも役立ってます



情報スキルのレベルアップも

卓球部

女子

尚志コース
3年 小泉 陽菜

明るく・元気にチーム一丸となって



県総体優勝



東北大会での熱戦！

私たち卓球部は、3年生5名、2年生5名、1年生3名の計13名で活動しています。少ない人数ですが、「全国大会出場」を目標にし、毎日練習を頑張っています。選手同士はとても仲が良いですが、メリハリをしっかりつけつつ、明るく元気に活動しています。

チームのモットーは「応援されるチーム」です。日ごろお世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れないことや、他の学校から憧れられたりまねされたりするチーム・選手である事を心掛けて日々活動しています。

6月に行われた宮城県高等学校総合体育大会では、ダブルスの部で小泉陽菜・本多芹菜ペアが本校として約10年ぶりに優勝し、インターハイを決めました。

このように各種大会で活躍できるのは、一緒に活動してくれた仲間がいたからです。私たちにとってかけがえない存在が私たちを成長させてくれました。これから全国大会をはじめ各種予選大会が続きますが、それらで良い結果を残せるように頑張ります。

美術部



尚志コース
3年 中里 萌

それぞれの表現を求めて

私たち美術部は、年数回の展覧会への出品と、英智祭での作品展示・ポストカード販売の活動をし、他は比較的自由であることが特徴です。そのため様々なジャンルの作品が生み出されます。

昨年度は市の作品展の最高賞である美研会長賞の受賞や県の作品展での受賞、初の全国展への出品ができました。今年度は7月の仙台市の作品展で3作品が受賞することができました。今年ももっと表現の幅を広げることを目指し活動していきます。

いつも締め切りぎりぎりにあせて作品を作っているのも、余裕をもって仕上げられるようにしたいです。



絵文祭での展示



絵本



油絵



木工



ファイバーアート



活動の様子

注目の部活動ピックアップ

茶道部

特別志学コースType2
3年 飯塚 美由

広く親しんでもらう



留学生も挑戦！



作法室にて

私たち茶道部は、顧問の臼井道子先生、副顧問の沼田晴香先生のご指導の下、2・3年生合わせて32人で活動しています。

一週間に一度のお点前の練習のみならず、校内での留学生茶会、児童館でのお茶会など、国際交流や地域間交流が盛んであることが、ウルスラ茶道部の最大の特徴であり、強みです。

それらを踏まえ、普段の練習ではお作法を学び、お茶に親しむことに加え、どうしても多くの人に親しみ楽しんでもらえるのかを考えることも大切にしています。

茶道を通して学んだ日本古来のお茶の文化とその楽しさを、自分たちの中に留めるだけでなく、広く親しんでもらえるよう、部員全員で努力していきたいと思っています。

女子 剣道部

特別志学コースType2
2年 谷 玲邑南

守破離

私たち剣道部は、3年生の先輩方が6月の宮城県高等学校総合体育大会、国民体育大会を最後に引退された現在、2年生3名と1年生2名、中学生1名の合計6名の女子剣士が、顧問の先生やコーチの先輩方の指導のもと講堂や体育館で日々稽古に励んでいます。練習には一人で行う素振りや、二人一組で行う掛かり稽古など様々な内容を取り入れており、練習中は学年に関係なく部員同士でアドバイスをし合い、お互いを高め合えるチームを目指していることが特徴です。

試合の目標は個人、団体ともに上位に入賞することです。また、支えてくださるすべての方々への感謝を忘れず、技術面だけではなく人間力も向上させることが大切であると考えています。一人の人間として成長できるよう、「守破離」の部訓を胸に心技体の一致を目標として鍛錬してまいります。



恐れず前に攻めることが大事



稽古の様子



切磋琢磨してきた仲間たち。
3年生引退式は男女一緒に！

●第70回全校高等学校総合体育大会

男子バドミントン

団体戦 インターハイ 初優勝!

◆個人ダブルス ベスト8…菊川 旭飛 / 吉岡 壮馬 組

【主将】藤澤 佳史
【マネ】寛村龍之介
菊川 旭飛
熊谷 翔
當間 雄哉
八島 良弥
吉岡 壮馬
若林 由亮

【大会を振り返って】

本当にうれしいことに、団体戦で優勝できました。この結果に満足することなくさらなる高みを目指してこれからも励んでいく決意です。また、礼儀や挨拶を大切に、常に応援されるチームを目指していきます。
(主将/藤澤 佳史)



女子バドミントン 団体戦 ベスト8

【主将】宇都 智加
【マネ】阿部 礼愛
阿部 衣純
櫻井 紀香
高橋 咲妃
志知 柚奈
三輪 明香
横内 美海

【大会を振り返って】

私たちは、優勝するための練習を全員でしてきましたが、目標には届かずとても悔しいと思います。ここまでやってこれたのはたくさんの方々のおかげです。応援ありがとうございました。
(主将/宇都 智加)



●第49回全国中学校体育大会

男子バドミントン 団体戦 第3位

【主将】後藤 優季
相澤 大智
矢田 楓雅
齊藤 羽空
佐藤 瑠活
井上 大馳
太田 匡亮

【大会を振り返って】

チームメイトや監督、保護者の方々の支えがあって第3位になることができました。準決勝では負けてしまいましたが、メンバー全員で戦った結果なので後悔はありません。来年も、優勝を目指して頑張ります。
(主将/後藤 優季)



応援を力に変えて

男子監督 畑山 辰徳

多くの方々に支えられ、令和元年の記念すべきインターハイで優勝することができました。皆様からのご支援に感謝いたします。

他の部に比べ後発の我々の活動は、体育館の使用時間を譲ってもらうところから始まりました。このことも含め、支えてくださる方々への感謝の思いが「もっと応援されるチームになりたい」「勝ってみんなに喜んでほしい」という推進力になりました。走るとガソリンが注がれ、注がれるともっと走る、そういう感覚です。

男子部創部13年。長い年月が経ちました。部員には、ウルスラのバド部の伝統を守り育てて欲しい。それは、戦績を残すことだけではありません。卒業した後に残るものを身につけること。ウルスラでのバドミントン部の活動を通して、バドミントンを離れた他の社会でも生きていける力と、生涯にわたる仲間を得ることです。これからも今まで通り、さらなる高みを目指します。

女子バドミントン 団体戦出場

【主将】太田 温彩
亀井 菜杏
後藤 咲々
橋詰 美優
小山 日咲
山口 菜摘
藤本 例瑛



◆バドミントン部

アジアジュニア選手権U19 2019【中国・蘇州市】
国別団体(ロシア/世界ジュニア選手権出場決定)
ベスト8…熊谷翔 / 藤澤佳史 組
第48回東北高等学校バドミントン選手権大会
男子団体 第3位 女子団体 第3位
第47回全国高等学校選抜バドミントン大会
男子団体 準優勝 女子団体 第3位
第37回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
男子個人ダブルス 優勝…熊谷翔 / 藤澤佳史 組
第73回国民体育大会バドミントン競技
男子出場 女子出場

◆新体操部

第70回全国高等学校総合体育大会
《インターハイ》
個人総合 21位…三村月輝乃
ボール 21位・クラブ 19位…三村月輝乃
第68回宮城県高等学校総合体育大会
個人総合 第1位…三村月輝乃
ボール 第1位・クラブ 第1位…三村月輝乃
第48回東北高等学校新体操選手権大会
個人総合 第2位…三村月輝乃
ボール 第2位・クラブ 第2位…三村月輝乃

◆ソフトテニス部

第70回全国高等学校総合体育大会
《インターハイ》
男子個人出場…鈴木航也 / 赤松皇汰 組
第68回宮城県高等学校総合体育大会
男子個人 ベスト8…鈴木航也 / 赤松皇汰 組
第65回宮城県高等学校ソフトテニス春季大会
男子個人 ベスト8…鈴木航也 / 赤松皇汰 組
第45回東北私立高等学校ソフトテニス大会
男子団体 第3位
男子個人 ベスト16…鈴木航也 / 赤松皇汰 組
佐久間駿 / 廣谷開人 組
第50回東北高等学校インドアソフトテニス大会
男子団体 ベスト8

◆卓球部

第70回全国高等学校総合体育大会
《インターハイ》
女子ダブルス出場…小泉陽菜 / 本多芹菜 組
第68回宮城県高等学校総合体育大会
女子学校対抗 準優勝
女子ダブルス 優勝…小泉陽菜 / 本多芹菜 組
女子シングルス ベスト8…三浦亜加莉
第46回全国高等学校選抜卓球大会
女子学校対抗 出場
第42回東北高等学校選抜卓球大会
兼 第46回全国高等学校選抜卓球大会
女子学校対抗 第5位
平成30年度宮城県高等学校新人卓球大会
女子学校対抗 優勝
女子ダブルス 第3位…小泉陽菜 / 本多芹菜 組
女子シングルス 準優勝…本多芹菜
ベスト8…小泉陽菜 三浦亜加莉

◆吹奏楽部

第66回全日本吹奏楽コンクール
銅賞
第31回全日本マーチングコンテスト 東北大会
金賞
第31回全日本マーチングコンテスト
銅賞
全日本アンサンブルコンテスト 第46回東北大会
打楽器七重奏 金賞
クラリネット七重奏 銀賞
第42回全日本アンサンブルコンテスト
打楽器七重奏 銅賞
全日本吹奏楽コンクール 第62回東北大会
金賞《全国大会進出》

◆合唱部

第71回全日本合唱コンクール宮城県大会
金賞(東北大会進出)
第86回NHK全国学校音楽コンクール宮城県大会
金賞
第86回NHK全国学校音楽コンクール東北大会
銅賞

◆書道部

第70回全国学生書道展
団体 準優勝
準大賞…齋藤未来
全日本書道連盟賞…松本奈津穂
第55回全日本書初め大展開覧会
日本武道館賞…佐藤紗奈 / 菅原佑月
特選…松本奈津穂 / 船越真樹子 / 齋藤未来
三戸莉奈 / 中津里穂 / 大庭ゆめ
第24回全日本高等学校書道コンクール
準優勝…船越真樹子
第26回国際高校生選抜書展
入選多数

◆その他

《ゴルフ》
第24回宮城県ジュニアゴルフ選手権競技
優勝…嶺岸聖也
《eスポーツ》
Coca-Cola STAGE:0 eSPORTS
High-School Championship 2019
東北ブロック代表決定戦…怪盗談(仮) チーム
《化学甲子園》
化学グランプリ2019
銅賞…二瓶聖河
《高校生クイズ》
ライオンズスペシャル 日本テレビ
第39回全国高等学校クイズ選手権2019
宮城県代表 全国大会進出
《数学甲子園2019》
第12回全国数学選手権大会
北海道・東北ブロック代表 本選進出
…カーボンナノチーム
《観光甲子園》
2019全国高等学校グローバル観光コンテスト
INBOUND部門 予選通過…NEKKチーム
OUTBOUND部門 決勝進出
…Paule Fulaチーム

幼稚園 《集まりの日》

毎年、2月の第一土曜日に行われる「集まりの日」。卒園してから6年後、教師や幼稚園時代の友だちに会えるのを楽しみに幼稚園にやってきます。今年度は**2020年2月1日(土)**開催予定です。



今年2月は平成25年度卒園の子どもたちが集まりました



小・中学校

毎年3月の同窓会入会式では、小学校同窓会長様、高等学校同窓会長様のご臨席とともに、先輩同窓生から「激励のこたば」をいただきました。今回は今春山形大学医学部に合格を決めた先輩が来てくださいました。共に一本杉キャンパスで過ごした先輩が、自信と希望に満ちた表情で壇上から後輩たちに語られる姿は、本当に輝いて見えます。このように若い同窓会員のエネルギーは、これからも後輩たちに受け継がれ、地の塩、世の光となっています。会員の皆様、いつでも懐かしい先生方と新しい学び舎を訪ねていただき、旧交を深めていただければと思います。

(同窓会事務局より)

高等学校

今年2月28日、卒業式前日に同窓会は新会員289人を迎え入れました。この元気な新会員は58回生となります。聖ウルスラ学院英智高等学校同窓会はその会員が14,330人となりました。

本年は、2年に一度の「帰天された恩師と同窓生のための追悼ミサと偲ぶ会」を11月に行います。小、中、高等学校合同の会です。「会員相互の親交、友情を深め、母校と会員の関係を密にして母校の発展を図る」と会則に謳われております同窓会の目的、この言葉を改めて心に留め、活動を行います。

同窓会会長 今野 麻里

NEWS

祝 平成30年度 東北大学総長賞 受賞

さわとう つかさ 2009年 特別志学コースType1卒業
澤藤 司さん 東北大学薬学研究科 特別研究員(PD)

《受賞論文タイトル》
合成ヘリセンオリゴマーの不均一系・非平衡系化学反応と自己組織化

もともと化学の実験が好きで、そのなかでも高2の時に有機化学に興味を抱いて以来、この道を歩んできました。

今回の研究は、細胞の表面の化学反応の解明につながるものです。このような賞を受賞することができて私自身嬉しく思っています。

今後は、企業で有機ELの研究に携わります。やるからには、あつと言わせるような成果を上げたいと思っています。



卒業生からのメッセージ

2006年3月卒業
高校特別志学コース[1期生]

ほりけ ふみえ
堀家 史江(旧姓相川)さん

現職/日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)
経営統括本部



(NY時代より)

私は特別志学コースの一期生です。校名に「英智」のはいった卒業証書を頂いた最初の学年でもあります。私たちが30歳代になりました。最初のメンバーは私を含めて9人。先生も生徒も誰もが手さぐりの3年間は、理想にかたちを与えていく試行錯誤の3年間でもありました。

思い出のアルバムから



たまには焼き芋でブレイクタイム!?



長崎研修旅行

高校時代を振り返ってみると、二つの自分が併存しています。変化に対応できずに苦しくてもがいている自分。一方で、焼き芋やかき氷を手をウキウキしている自分。その両方の場面のなかに、見守ってくれる友達と先生方の姿があります。

広島大学を卒業してからは、造船、鉄道といった運輸に携わってきました。高校時代には考えてもみなかった分野です。そしてそこで、高校時代にはあんなに苦労した英語を生かして社内教育を行うことになったり、大学で得た知見をもとに、関心が高まり始めていた熱中症対策やメンタルヘルスなどの衛生環境の啓発に携わったり。また、夫に同行してニューヨークに住んだときには、図書館やコミュニティ・カレッジの講座に参加しまくり、短い期間ながら濃密な時間を過ごしました。学び続ける、それを生かす。ものごとに対するこの構えは、高校時代に体得したものだと思います。

「涙ともに種をまく人は、喜びの歌とともに刈り入れる」。

(※聖書 詩編126)

これは、担任の福士敏明先生が卒業アルバムに記してくださった言葉です。頑張っていたあのときが種まきで、今が刈り入れなのかな。刈り入れていると思っている今が、実は次への種まきの時なのかな。そんなことを考えていると、「今を一生懸命生きよう」と力が湧いてきます。

現在の、そして未来のウルスラ生みなさん、学院で過ごす時間の中に、生涯を支えることになる出会いや体験がきっとありますよ。あなたの体験は誰にも奪われないあなただけのもの。精いっぱい色々な種を蒔いてください。

Piano Violin



聖ウルスラ学院英智音楽教室 ～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は、創設72年という長い年月、キリスト教精神を礎に、音楽を愛する多くの皆様のご支援とご協力により支えられてまいりました。

小さなお子様から「大人のための教室」も充実し、共に音楽を学ぶ楽しさを育むレッスンを行っております。

第72回

ピアノ・ヴァイオリン発表会

と き/令和元年11月10日(日) 10:00~18:00 (予定)
と ころ/仙台市戦災復興記念館

入場
無料

どうぞ、お問い合わせしてお越しください。
●お問合せ…Tel.022-257-0341(平日 14:00~18:00)

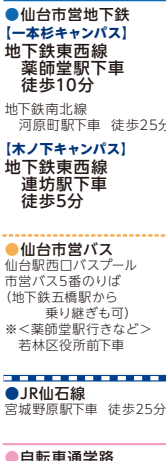
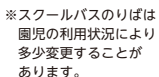


生徒募集中

どなたでも随時入室できます。

※詳細は募集要項をご覧ください。

併設型中高一貫教育学校



SUG 英智

聖ウルスラ学院	
英智幼稚園	〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号 TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014
英智小・中学校	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-6461 (代) FAX.022-286-6431
英智高等学校	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-3557 (代) FAX.022-286-7279
法人事務局	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

[編集委員] 委員長 / 高橋 直見(法人事務局長)
 幼稚園 / 武江 美和・沢田 智恵
 小・中学校 / 黒田 沙織・大槻 弘兵
 高等学校 / 坂田 浩二・吉井 恭子・上野 裕佳
 [編集事務局] 今野 正則(法人事務局次長)・庄司 良佑
 [編集協力・製本] 株式会社アト東北プロ